

## ヤマトグループ貨物便の就航準備について

### 1 就航準備

本年1月、ヤマトグループが貨物専用機を導入し、JALグループと共同で2024年4月から北九州空港と首都圏を結ぶ航空輸送を始めることを発表した。今後、就航までの2年弱の間に、様々な準備が進められていく。

市としては、2024年4月に貨物便がスムーズにスタートできるよう、ヤマトグループの要望に沿いながら最大限のサポートを行っていく。

貨物便に関する詳細情報は、別紙リリース資料のとおり。

### 2 進捗状況

一般的に、就航準備は「運航」と「オペレーション」の2つに大別され、ヤマトグループが中心となって、国や事業者との各種調整を進めていくと思われる。

運航について、運航会社は令和4年1月にJALグループのジェットスター・ジャパン株式会社に決定しており、導入する貨物機3機は芙蓉総合リースとリース契約を締結すると報道されている。

なお、発着枠の調整や航空貨物の仕分け・保管機能の準備、貨物機への搭降載作業の準備などのオペレーションについては、今後、準備を進めていくと聞いている。

以上

**ヤマトグループが貨物専用機を導入**  
**日本航空と共同で北九州空港を九州の航空輸送拠点に選定！**  
**～九州・西中国の物流拠点空港へ向けて大きく前進～**

このたび、ヤマトホールディングス株式会社（以下「ヤマトグループ」）が、持続的な物流ネットワークの構築に向けて貨物専用機を導入し、日本航空株式会社（以下、JALグループ）と共同で九州の航空輸送の拠点に北九州空港へ就航することを発表いたしましたのでお知らせいたします。

## 記

## 1 背景と意義

現在、**持続可能な輸送ネットワークの維持は私たちの生活基盤に不可欠なもの**となっており、その重要性が増しています。Eコマース市場の急成長、働き方改革による長距離トラック輸送に対する規制強化、災害時の輸送手段の確保など、**物流は大きな変革期**を迎えています。

こうした状況を踏まえ、ヤマトグループは、トラック、鉄道、フェリー、旅客機床下スペースなど既存の輸送モードに加え新たな輸送手段として貨物専用機を導入し、JALグループと連携し、羽田空港・成田空港・新千歳空港・那覇空港と並んで、**北九州空港を九州の拠点として選定**し、**貨物専用機を用いて2024年（令和6年）4月から運航開始することを決定**しました。

これにより、輸送力の確保とサービス品質の維持に向けて、**北九州空港が物流ネットワークの一翼として大いに活用**され、本市のみならず福岡県そして**九州全体の経済及び地域活性化に寄与**することが期待されます。

## 2 本市にとっての効果

この取組みにより、本市に以下の効果が見込まれます。

- ① 空港での貨物上屋機能の設置など、物流拠点空港として大きく前進
- ② 新規雇用の創出、エアポートバス・空港内商業施設の利用促進
- ③ 航空輸送のスピード感が生産地と消費地の距離を縮め、市民ニーズに応え  
るとともに、地域産業の競争力向上、産業集積に大きく貢献 など

物流拠点化による空港の発展が、市民や地域産業に対し利便性をもたらし、さらなる需要を喚起し新たな投資を呼び込む**好循環の創出**を図っていきます。

## 3 運航概要（※当計画は、関係官庁の認可取得を前提としています。）

- |            |   |
|------------|---|
| (1) 運航開始   | 2024年（令和6年）4月                                     |
| (2) 運航受託会社 | ジェットスター・ジャパン株式会社<br>（ヤマトグループが機材を用意）               |
| (3) 運航路線   | 羽田空港・成田空港⇄ <b>北九州空港</b>                           |
| (4) 導入機材   | エアバス A321ceoP2F 型機（貨物専用機）<br>最大搭載重量は28トンで、3機を導入予定 |

**【問い合わせ先】**

港湾空港局空港企画課（担当：高岡、浦）

TEL：093-582-2308 / FAX：093-582-0181

2022年1月21日

ヤマトホールディングス株式会社

日本航空株式会社

## 持続的な物流ネットワークの構築に向けて フレイターの運航を2024年4月から開始 — 羽田・成田空港と新千歳・北九州・那覇空港間に就航 —



※機体のデザインは今後変更となる可能性があります。

ヤマトホールディングス株式会社（本社：中央区銀座、代表取締役社長：長尾裕、以下「ヤマトHD」）と日本航空株式会社（本社：品川区東品川、代表取締役社長：赤坂祐二、以下「JAL」）は、持続的、かつ強靱な物流ネットワークの構築に向け、首都圏から北海道、九州、沖縄地域への長距離輸送に貨物専用機（以下、フレイター）の運航を2024年4月から開始します。

### 記

#### 1. 背景および目的

現在、ヤマトグループなどの物流事業者は、モーダルシフトなど環境に配慮した取り組みの推進はもちろん、2024年4月1日から自動車運転業務の年間残業時間が上限960時間になることによる長距離トラックの輸送力の確保、代替手段の検討など、対処すべき課題を多く抱えています。また近年、全国各地で発生する大雨や大雪、地震などによる物流網寸断リスクへの対応を強化していく必要もあります。

一方、JALグループも、長期的な人口減少による国内路線の多頻度小型化の影響に加え、昨今の新型コロナウイルス影響下の環境変化による旅客機床下貨物スペースの減少などの課題を抱えており、新たな供給創出の必要があります。

今回、ヤマトグループが機体を導入し、JALグループが運航を担い、これまで長距離輸送を担ってきたトラック、鉄道、フェリー、旅客機床下貨物スペースにくわえ、新たな輸送手段としてフレイターを活用することで、安定的な輸送力の確保やサービス品質の維持・向上を図ります。このフレイター運航は、両社の持つアセットやノウハウを活用し、地域への貢献やトラック輸送が抱える問題など社会課題の解決に寄与することで貨物事業の更なる成長を実現する機会と捉えています。2024年4月から、羽田・成田空港と、新千歳・北九州・那覇空港間で開始します。

## 2. 概要

### (1) 導入機材

使用機種：エアバス A321ceo P2F 型機

※旅客型機（中古機）を貨物専用機に改修

導入機体数：3 機

最大搭載重量：28t/機（10t 車約 5～6 台分）

搭載コンテナ

AAV コンテナ（メインデッキ）：14 台

AKH コンテナ（ロワーデッキ）：10 台

### (2) 運航会社・地点

運航会社：ジェットスター・ジャパン株式会社

運航地点：羽田空港・成田空港・新千歳空港・北九州空港・那覇空港

※当計画は関係官庁の認可取得を前提としています。

### (3) 運航開始：2024 年 4 月予定

### (4) 環境への配慮

フレイターの導入により輸送手段の拡大並びに輸送スピードが向上することで、輸送ネットワーク全体の効率化を実現します。今後も環境負荷低減に向けて継続して輸送効率化に取り組めます。

## 3. 今後の展開

ヤマトグループと JAL グループは、「物流に新たな価値を提供し、サステナブルな社会を実現する」という共通ビジョンのもと、フレイターの導入を機に、距離に応じた最適な幹線輸送のポートフォリオを構築し、今後の新たな需要や労働力不足への対応はもちろん、自然災害など緊急時の輸送チャンネルとしての一助となることを目指します。

さらに、将来的にフレイター運航におけるネットワーク拡大やスピード輸送の実現にとどまらず、両社がこれまで培ってきた経営資源の相互活用などの提携を進め、地方発の D to B/C<sup>※</sup>市場の形成や国内・海外への商流構築などの新たなビジネスチャンスの創出により、地域産業の活性化への一層の貢献を通じて、お客さまに選ばれ続ける企業価値の向上を図っていきます。

※DtoB/C Direct to business/consumer

以上

### 【お問い合わせ先】

<一般の方>

ヤマト運輸株式会社 コールセンター TEL：0120-01-9625

<報道関係の方>

ヤマトホールディングス株式会社 コーポレートコミュニケーション戦略担当 TEL：03-3541-4141

日本航空株式会社 広報部 TEL：03-5460-3105